

第20回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年7月18日（水） 15：30－17：16

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、薬師寺座長代理、市川委員、小野田委員、倉本委員、竜木委員、
藤井委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、山口参事官、
佐藤参事官

(4) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 谷課長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中宇宙科学研究所長・理事

4. 議事要旨

(1) フロントローディングについて

前回会合において座長一任となった、宇宙科学・探査小委員会としてのまとめについて、事務局から資料1に基づき説明があった後、フロントローディングについて、以下が確認された。

- ・プロジェクト化が有望なプリプロジェクトであって、規模が大きくリスクが高い技術等に対して適用していくものであること
- ・来年度予算において、MMXに対してフロントローディングの考え方を適用すること。

(2) プログラム化について

事務局から、資料2及び資料3に基づき、宇宙科学・探査小委員での作業手順、検討にあたり考慮すべき事項、今後の検討スケジュールについて説明があった後、プログラム化とはどういうものかという議論において、松井座長から、小委員会で検討するプログラム化は、科学コミュニティの中でボトムアップに基づいて作り上げられるだけのものではなく、別の視点も加味したものである旨言及があった。

なお、検討スケジュールについては、資料3のとおり進めていくことで了承された。

そのほか、委員からは、以下のようないい意見等があった。

<プログラム化について>

○予算枠やステークホルダーという観点からは、国際宇宙探査や国際協力でシリーズとして行う科学プロジェクトの中で日本の役割をどう果たしていくのかを整理していくのがわかりやすいのではないか。

○月・火星に限らず大きな探査目標（コミュニティとしては前生命環境の調査）のために、国際宇宙探査も活用しながらいかに必要な観測機会、観測技術を獲得していくのかがプログラム化ではないか。

<プログラム化における考慮事項について>

- 国際宇宙探査における科学の視点からの日本の役割についても考慮が必要である。
- プログラム化の対象は、当面、国際的動向を踏まえ、月・火星探査に絞るのが適当
- LOP-G の使い方を念頭におけば、資源探査の観点から小惑星も対象に入れるべき
- 日本の得意分野を積極的に国際宇宙探査に売り込むことも必要。

(3) その他

事務局から、資料 4 に基づき、第 3 回米国家宇宙会議における探査を巡る議論の紹介があったが、特段の意見などはなかった。

以 上